

次期廿日市市産業振興ビジョンの施策・方向性の整理

次期ビジョンの施策・方向性の検討にあたっては、市産業を取り巻く経済動向、アンケート・ヒアリング調査、産業構造調査等で明らかになった市産業の現況、市内事業者の課題や要望等の現状分析に基づき、必要とされる施策を積み上げ、以下のとおり整理しました。

①市内事業者アンケート・ヒアリング調査 産業構造調査等に基づく本市産業の課題(概要)	②施策の検討	③方向性の整理			
市内就業者の半数以上が市内勤務だが、人手不足が深刻化。小規模事業者ほど人材確保が困難な状況にある。 サービス業においては、多様な雇用形態での人材確保志向が強いものの、産業全体での活用意識の浸透は不十分。 人材育成を体系的に実施していない事業者が相当数存在。即戦力需要が強く、若年層を育てる余力がない状況。	地元就業の促進と人材確保の推進 多様な人材の活躍の推進 人材育成の強化産業連携補助金	「人」	1 人材を呼び込み、育み、定着させるまち		
交通・物流環境に改善の余地あり。事業用地・産業用地の整備状況に一定の評価はあるが、さらなる充実が望まれている。 仕入元・販売先・外注先の減少により、事業ネットワークが縮小傾向。市内の産業集積の希薄化が懸念される。 営業・販売力の強化が最重要課題として認識されているが、技術力を市場価値に転換できない構造的課題が存在。 原材料価格上昇が最大の不安要素で、利益圧迫が深刻。設備投資は現状維持が多数を占め、積極投資には消極的。	事業環境の整備促進 産業集積の維持・強化 販路開拓・売上向上 生産性向上・高付加価値化			「事業者」	2 事業者の「稼ぐ力」を養い、持続的に成長できるまち
宮島観光関連産業の市内調達率が21%と低く、観光消費の経済波及効果が1.19倍に留まる構造的課題が存在。 廿日市らしさを活かした商品開発を希望する事業者が存在。特色ある地域資源を発掘・活用し、差別化を図る必要がある。 異業種連携への関心が高く、潜在的ニーズが存在。メリットの認知度不足による無関心や、成果に繋がらない等の課題もあり。 新規事業展開の具体的計画・意向を持つ事業者が相当数存在。しゃもじん創業塾の受講者も多く、市内創業に意欲的。	観光の基幹産業化 地域資源の発掘・活用 多様な連携の促進 新たなビジネスの創出				
商工会等への信頼は高いが、事業者規模によるアクセスの格差が存在。小規模事業者の利便性向上が急務。 現行ビジョンの戦略で「分からない」が50-60%と過半を占め、支援制度も6割以上が認知していない状況。	産業支援ネットワークの強化・高度化 支援制度の認知度向上と利便性強化	「支援基盤」	4 事業活動を支える支援体制が整ったまち		

